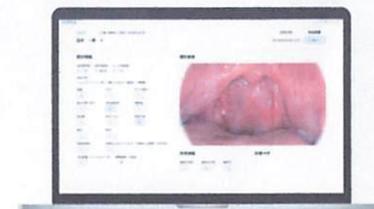
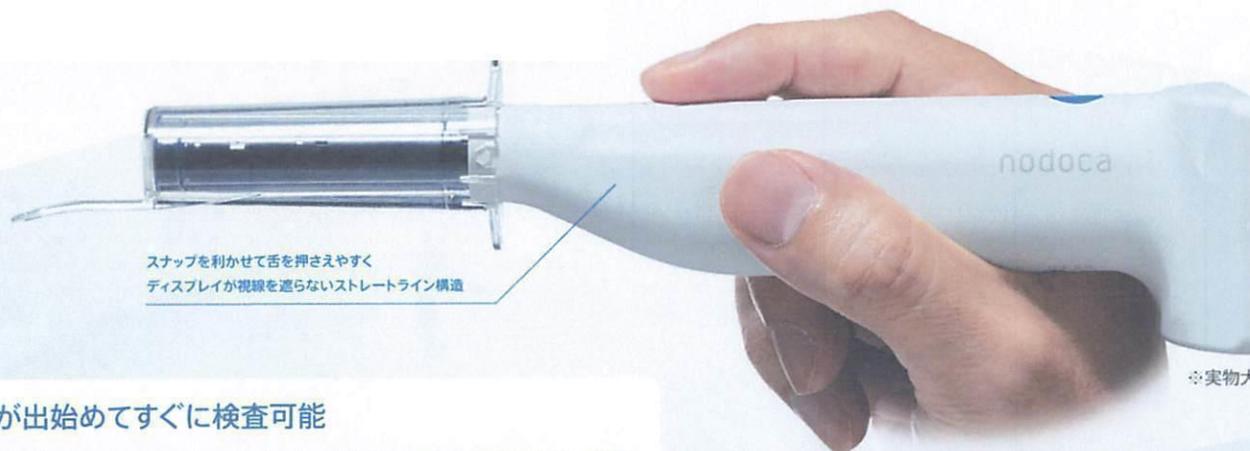


全国で導入実績1,000施設以上 患者さんの痛みが少ないインフルエンザ検査



nodocaクラウド



nodocaで撮影した鮮明な咽喉画像

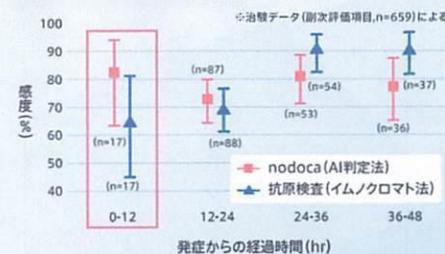
※実物大

発熱・症状が出始めてすぐに検査可能

特長
1

nodocaを用いた検査は、ウイルス自体ではなく患者さんの症状や体の変化に着目するため、発症早期の検査にも利用可能です。発熱やのどの痛みなどの症状が出始めてすぐの患者さんにも、インフルエンザ検査の結果をお伝えできます。PCR法検査に対するnodocaの感度は76.0%、特異度は88.1%です。

注 治験では統計的に有意な差は認められませんでした。発症後12時間以内において、nodocaによる検査はイムノクロマト法よりも感度が高い傾向が認められました。(右図1参照)

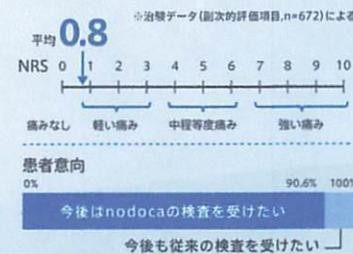


【図1】発症経過12時間毎のイムノクロマト法検査との感度の比較

痛みの少ない、患者さんにやさしい検査

特長
2

nodocaは、専用カメラで撮影した咽喉画像と問診情報等をもとにインフルエンザを判定するため、痛みの少ない、患者さんにやさしいインフルエンザ検査を提供します。治験時のNRS (Numerical Rating Scale) による痛みの評価は平均0.8と低く、実際に、治験参加者の90.6%が「今後はnodocaの検査を受けたい」と回答しています。(右図2参照)



【図2】治験時の痛み (NRS) の評価・患者意向



【図3】nodocaが提供するインフルエンザ検査の流れ